

的な問題、未来に対する漠然とした不安といった複雑な問題を私たちは抱えている。この殺伐とした現代を野草のように生きていくために私たちは前を向いて互いに協力し、手を取り合い、目の前の課題を一つ一つ解決することが大事なのだと、このトリエンナーレから強く感じることができた。



ユア・プラザ・フィルムメイキング・グループ
《宿舍》
(撮影者：伊東美秋)

ウェルカーゼミナール 秋葉原探訪レポート

国際日本学部国際文化交流学科

3年 山本拓実

国際日本学部日本文化学科

3年 長谷川天駿



ジェームズ・ウェルカー先生のゼミナールは毎年秋葉原を訪れます。このゼミナールでは日本のポップカルチャー、例えばオタク文化などにあるジェンダーを扱います。その為日本のオタク文化の中心である秋葉原は重要な場所なのです。まず秋葉原駅に集合し、秋葉原の歴史について先生から教わりました。

メイドカフェに訪れると、みんなは中々店の奥の方へと進むのを躊躇っており、前の方にいた私だけ押し出されてしまいました。日本ではオタクが受け入れられるようになってきていると聞きますが、人前でオタクらしい物へ触れようとするのには恥ずかしさを感じるのでしょうか、

メイドさんが即興で書いた猿



実際にはまだ日本ではオタク文化は恥ずかしい文化といった面が残っているのかもしれないと思いました。店内では先生にパフェなどをご馳走になりながら、メイドさんによる会話・おまじない・ダンス・チェキなど、メイドカフェらしいものを楽しみました。メイドさんがオムライスにイラストを書く際にはお客さんにリクエストを聞くのですが、その後、何も見ずにかわいい絵をケチャップを使いながら描いていて感動してしまいました。ダンスをしている時もいろいろなお客さんに視線をしっかりと送っていて、メイドさんの凄さを体感することができました。

その後は秋葉原の散策をしました。秋葉原やオタクと聞けばアニメ、漫画などそういったものを今は思い浮かべますが、訪れたラジオ会馆などにはSF・人形・モデルガンなど、以前はオタクという言葉でアニメ、漫画と一緒に思い浮かべられていたジャンルのお店が残っていました。

散策の後は最後の目的地の明治大学にある米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館を訪れました。この図書館は漫画、雑誌、同人誌、それらに関する学術書など40万冊が所蔵されています。国会図書館では多数の雑誌を管理する為に背表紙をくっ付けて保存します。これによってくっ付けられた面やスタンプで隠れた部分の情報失われています。ですがこちらの図書館は雑誌をできるだけそのままの姿で保存するために、管理用のバーコードなどの情報は別紙に全て記し、状態の保護のためにビニール袋を本全体に被せるという保存が為されています。これらから雑誌という形を大切にしているということが伝わってきました。特別に通じていただいた4階の書庫では少年ジャンプやサンデー、ちやおを始めとする数え切れないほどの雑誌が

先述した方法で保存されていました。背表紙もすっかり残っているため、例えば少年ジャンプでは先日亡くなってしまった漫画家の鳥山明先生の初連載作品「Dr. スランプ」の連載開始から終了、「ドラゴンボール」の連載開始から終了までの軌跡が背表紙から手に取るようにわかり、背表紙が貴重な情報源であることを実感しました。

私達は雑誌の中の漫画という部分だけに注目しがちですが、雑誌というメディアの形によって付随する情報も漫画とつながった大切な情報という事に気づかされました。

台湾国立中山大学との交流セミナーの開催

「黄金町フィールドワーク」

通して考える地域再生」

「観光文化コースのコース演習Ⅰ」

崔クラスの取り組み

国際日本学部 国際文化交流学科2年

江原由美・新保みくり・原沢怜佳

氏川晴仁・梅田千帆・松原穂佳・吉田礼萌

若杉日和・阿武弥春・杉原彩華・岩崎真希

坂井勝永・嶋崎結菜・鈴木里奈・増田有紗

1) はじめに

国立中山大学西湾学院社会創新大学院の夏休み日本見学クラスを履修する学生10名（社会創新大学院修士学生7名、学部生3名）と教員ら2名の12名が2024年6月22日（土）、神奈川県を訪問した。台湾の学生達は、6月19日から29日までの間、日本に滞在しながら、台湾の社会課題を解決するためのヒントを得る

ために、SDGsの実現に関わる日本の各組織の取り組みを視察した。本学訪問時には、本学の国際日本学部国際文化交流学科の観光文化コース2年生15名とともに、黄金町を視察したあと、お互いの研究内容を報告する交流セミナーを開催した。両大学の学生達は、一緒に黄金町に赴くことで現地では分からない新たな事柄を発見し、交流するなかで新たな視点を導くことが出来た。



黄金町エリアマネジメントセンターでの見学の様子

2) 黄金町での視察

黄金町は、至る所にアートが置いてある。例えば、ゴミ箱にアートがあるなど、スタンプリーのような感覚でアートを楽しむことができる。まちを歩くだけで新しい発見があった。例えば、ミラーボールのようなものに植物が入っており、その上に小さい人の人形があり、作品一つ一つ工夫してあって、飽きる事がなかった。実際訪れてみて、アートのまちとなっている状況を確認できた。黄金町エリアマネジメントセンターの事務局の方々のレクチャーを受け、どのように黄金町が変わってきたかを学べた。また、日本人だけではなく外国人のアーティストも多いことに驚いた。

3) 台湾の学生達との交流

黄金町の視察の後に、大学まで移動する時は、台湾の学生達と交流しながら、電車と徒歩を使った。電車を待つホームでは、台湾の学生と本学の学生、それぞれの班に分かれて各国の文化や日本のおすすめのものなどを共有した。台湾の学生の中には日本語ができる

学生もいて、英語、日本語の両方を使いながら会話した。本学1階のVOYAGEにて昼食をとるとき、券売機の使い方に慣れていない台湾の学生たちに使い方を教える場面があった。コミュニケーションをとることの難しさを痛感した。昼食中は、台湾の文化を聞き、日本の学生の中で流行しているものなどを話した。台湾の学生は連日の視察で疲れている中、意欲的に日本のことについて話してくれて、我々も台湾について興味・関心を持つようになった。

4) 台湾からの学生達とのキャンパスツアー

私たちがキャンパス内で紹介したのは、最上階のレストラン「Light house」、7階の学食、外のテラスである。天気が良かったのでみなとみらいが一望でき、富士山を見ることができた。大学の隣にあるコンビニと一緒に行き、日本の美味しいコンビニスイーツや私たちがおすすめのお菓子を紹介し、みんなでお菓子を交換し合いながら交流することができた。キャンパス内を回っている時に、台湾の学校では学食はどうなっている、教室はどう日本と違うのかなどを教えてくださいましたので、短かったが有意義な時間を過ごすことができました。

5) 交流セミナーの開催

交流セミナーでは、お互いの発表を聞き、学びになることが多かった。相手から質問などを受け、自分たちでは気づけない部分を指摘してもらい、新たな問題に気がついた。

「横浜中華街の移り変わり」に関する発表では、中華街の店舗の経年変化や抱えている課題を把握し、改善提案をする発表を行った。横浜中華街は、横浜の観光地区として有名であり、台湾の学生達が興味を持つテーマでもあった。「横浜のインバウンドにおける観光

の潮流」に関する発表では、神奈川県において日帰り観光客の割合が高く、横浜ではなく東京に宿泊する観光客が多いことを指摘し、横浜のホテルにおける課題について報告した。「音楽と横浜のまちづくり」をテーマにした発表では、横浜にライブ会場が集結する理由とまちづくりの関係について報告した。横浜で音楽を用いたまちづくりが実践されていることを報告した。

台湾の学生側による発表では、少子高齢化、働き方の問題、まちのイメージ改善など台湾の抱えている様々な社会問題や地域問題について知ることができた。台湾にも日本と類似した社会問題があるからこそ、日本の取り組みについて積極的に学ぼうとする姿勢を感じた。神奈川大学の学生側と中山大学の学生側が互いに質問をしあうことで、より交流を深めることができた。

6) 全体の振り返り

海外の学生達との交流セミナーを準備するなかで、上手くコミュニケーションをとれるかが不安であった。また、初めは言語や文化の違いによる戸惑いもあったが、徐々に会話をするようになり、一緒にアートのまちづくりの様子を見て回るなかで、距離を縮めることができた。日本の食べ物やアニメ等について会話する時間は楽しく、台湾の学生達が積極的に日本語を交えながら話しかけてくれたので嬉しく感じた。台湾の学生達の真剣に質疑をする姿を見て、一緒に議論したことは貴重な経験になった。



台湾学生の研究発表